

インターバンクの声（2015年7月22日）

昨日、東京市場でのドル円は、一昨日から続く小刻みなドル買いに124円台を一步ずつ上昇、6月10日以来となる124円60銭台回復も間近とも思われた。ただ、ロンドン勢が参入してくる時間帯になっても124円40銭台の上値が重く、積極的なドル買いはニューヨーク勢に託すような展開となった。しかし、ニューヨーク勢の初動もドル買いにはならず、ギリシャ問題の先行き懸念が和らいだことや、米国債利回りが低下し始めたこともあって、ユーロや円の買戻しが先行してしまった。さらにドル円は、堅いと考えられていた124円台前半のサポートレベルが簡単に破られてしまったこともあって、予定外に近いドルの買い持ちポジションのストップが重なり、それ以降は124円台への回復すら難しくなってしまった。今日の東京市場もドル円取引に大きく影響しそうな材料も見当たらず、ニューヨーク時間での住宅関連経済指標の発表までずいぶん時間がある。株価の変動によっては多少影響を受けることになるかも知れないが、今日も積極的に仕掛けて来るような展開も期待し難く、相場が膠着する時間帯が多くなりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。